

隨泉寺寺報

平成 21 年 (2009 年) 8 月号 第 468 号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

お盆法座

講師 住職 自修

講題 『お盆を迎えて』

今年も全国で大きな水害が起きました。老人ホームの裏山が崩れました。警報は出ていたのですが旨く伝わりませんでした。

津波がくる、洪水がくると避難警報を発しても、なかなかまともには受け取られず、全員を避難させるのは困難だと聞きました。まさかそんなことは、まさかここまでは、まさか自分がという観念が邪魔をするといいます。

身体の変調についても、こういう観念で失敗して手遅れになったということをよく聞きます。仏法を聞くことについてもその りのようです。

蓮如上人は、「よそごと聞く」「得手に聞く」「売り心で聞く」のが邪魔をしているといわれました。要するに自分のものさしで判断してしまうのが怖いということでしょうか。亡き人がわが身を掛けて大切なことを教えてください。明日もわからないこと、必ずいつかは死んでゆく身である事、自分自身のこととしっかりと受け止めてください。

法という文字は水の流れるさまを表すのだそうです。自らを低くせねば水は流れ込んで来ません。高ぶっては何も学びとることはできない道理です。

このことはまた、自らを低くすれば、求めずして流れ込んで来るものが不滅の法であることも教えているのでしょう。

8 月の法座予定

8 月 3 日 …………… 少年少女の集い

8 月 9 日午前 8 時より …………… 掃除 長者原東

8 月 16 日朝席午前 10 時より …………… お盆法座

8 月 16 日昼席午後 1 時半より …………… 初盆追悼法要

9 月 2 日午後 6 時より …………… 門信徒会本部役員会

☆平成 21 年初盆を迎えられる方

俗名	法名	命日	行年	地区
高部 ハルエ	釋尼妙順	平成 20 年 8 月 7 日	84 才	他所
西本 イサミ	釋淨悲	平成 20 年 8 月 8 日	94 才	瀬野川団地
馬場 博	淨信院釋博慧	平成 20 年 8 月 13 日	68 才	出宮
舛田 主税	釋主心	平成 20 年 8 月 26 日	71 才	出宮
弘津 津瑠子	釋瑠光	平成 20 年 9 月 8 日	101 才	鴨の巣団地
和田 誠	釋至誠	平成 20 年 10 月 28 日	48 才	平原西
熊川 文木	釋慶文	平成 20 年 11 月 7 日	69 才	鴨の巣団地
木原 和雄	釋和清	平成 20 年 11 月 20 日	80 才	平原東
西塚 治男	釋晃専	平成 20 年 11 月 23 日	78 才	長者原西
西田 秋人	釋慈省	平成 20 年 11 月 27 日	89 才	出宮
為尾 一摩	釋一心	平成 20 年 11 月 28 日	59 才	出宮
中本 義昭	真義院釋昭然	平成 20 年 11 月 28 日	70 才	上平原 1
高部 忠	宣忠院釋德善	平成 20 年 12 月 15 日	91 才	井原
鈴木 潤子	釋淨潤	平成 20 年 12 月 23 日	75 才	他所
住田 正記	釋樂邦	平成 21 年 1 月 10 日	83 才	平原西
下田 シズ子	釋清静	平成 21 年 1 月 14 日	69 才	上平原 2
木建 石男	釋順定	平成 21 年 2 月 4 日	89 才	瀬野
井谷 一枝	信證院釋常行一心大姉	平成 21 年 2 月 20 日	92 才	他所
仲島 テル子	釋照見	平成 21 年 2 月 20 日	89 才	瀬野川団地
上多 武義	釋証知	平成 21 年 3 月 7 日	84 才	上平原 1
榊本 浅太郎	釋弘徳	平成 21 年 3 月 14 日	91 才	望ヶ丘
若岡 利信	釋恵利	平成 21 年 3 月 14 日	63 才	平原西
金田 智	釋正智	平成 21 年 3 月 15 日	74 才	望ヶ丘
竹前 千鶴	釋千明	平成 21 年 3 月 15 日	25 才	他所
竹前 千泉	釋千泉	平成 21 年 3 月 15 日	1 才	他所
二井原 隆	釋紹隆	平成 21 年 3 月 30 日	57 才	他所
鍋沢 サワエ	釋尼妙覺	平成 21 年 4 月 6 日	95 才	井原
東 文三	釋教文	平成 21 年 4 月 10 日	77 才	他所
原 かず見	釋大慈	平成 21 年 4 月 19 日	83 才	井原
沖原 和夫	釋和顔	平成 21 年 4 月 21 日	81 才	他所
宮原 茂	釋教信	平成 21 年 4 月 25 日	89 才	他所
竹本 綾子	釋智水	平成 21 年 4 月 30 日	87 才	長者原東
岡埜 人士	釋俊徳	平成 21 年 5 月 5 日	78 才	高部
石崎 俊靖	釋淨俊	平成 21 年 5 月 15 日	68 才	井原
川野 ミヤコ	釋尼妙永	平成 21 年 5 月 21 日	103 才	上平原 2
上野 みつゑ	釋妙満	平成 21 年 5 月 25 日	84 才	井原
益田 武男	釋大益	平成 21 年 6 月 16 日	81 才	平原西
原 照雄	釋普照	平成 21 年 6 月 18 日	83 才	井原
柳田 貞一	釋一向	平成 21 年 6 月 27 日	92 才	平原西
上霜 勇	釋行勇	平成 21 年 6 月 29 日	83 才	他所
宮迫 徹治	釋徹到	平成 21 年 7 月 14 日	78 才	中須賀
和田 操	釋明澄	平成 21 年 7 月 30 日	84 才	平原西

去年 (平成 20 年 8 月 1 日) から今年 (平成 21 年 7 月 31 日) までにお浄土に還られた方々です。いずれも懐かしい方々です。

大きな大きな

しあわせのどまんなか

最近、老人の方々の学習会が、各地で熱心に行なわれるようになりました。各種団体の勉強会、研修会の中で、いちばん熱心にやられているのが老人の方々のそれではないかと思われま

す。ところが、その学習内容のことになりますと、なぜか「死」の問題を避けておられるような気がしてなりません。しかし、これを避けて っはほんとうの勉強にならないのではないのでしょうか。避けようとしたって、誰一人避け切ることのできないのがこの問題ですから。

私は、しあわせなことに、この一番大切な問題の学習を父がさせてくれました。父が、自分の死にざまを私に見せることによって学習させてくれたのです。

父が死んだのは数え年の63歳、私が数え年28歳の11月30日でした。その頃私は豊岡市の小学校に勤めさせてもらっていたのですが、たいへん寒い日で、教室の窓から見える近所の家トタン屋根には霞（あられ）がはね返っていました。父の病気の中心は神経痛でしたが、あれは天候に敏感な病気がしく、寒い日、湿度の高い日はひどく痛むようでした。床に就いて七年、終りの三年は寝返りも自分の力ではできない程弱っていました。「こういう日は父の体が痛むんだが、ちょっと帰って見てこようかな」と思うのですが、学校の仕事も気がかかります。その日は水曜日でしたが、「もう二日で土曜日だ、土曜日に帰って看病しよう」と考えるのですが、やはり落ちつけません。迷っている中に日が暮れてしまいました。日が暮れてからもまだ迷っておりましたが、夜、十時、「やっぱり気になる。帰ってこよう」と心が決まりました。

豊岡から家までは三十二キロちょっとあります。自転車のペダルを踏む私の顔に霰が痛かったのが忘れられません。だんだん坂道になります。汗びつしよりで家に帰り着いたのは、もうすぐ夜半十二時というところでした。

父がたいへん喜んでくれて、「生きておれば、役にもたたんわしをこうしてお前たちが案じてくれる。いま息が絶えても、大きな大きなしあわせのどまんなか、世界中にぎょうさん人間がいるが、わしぐらいなしあわせ者が世界中にあらうかい」その声が、だんだん細くなり、淡くなり、消えていったのが父の最期でした。私は、父が眠ったと思ったのですが、義母が父の鼻に手をかざしてお念仏を称えはじめました。もう呼吸は消えてしまっていたのでした。

父は幼くして生母を亡くし、義母や義母が生んだ弟との間でずいぶん苦しんだよ



うでした。結婚しましたが、私と私の妹の二人を遺して私の母が亡くなりました。それを手はじめに、二十年間に六つ葬式を出すありさまで病人の絶え間がなく、ずいぶん貧乏をしました。そういうことで、世間の人々の父に対する評価は低くきびしいものでした。しかし、世間の評価なんかいいかげんなものです。私は、子どもの頃から、深い、確かな「信」をいただいている父を尊敬しつづけていました。いつか、西元宗助先生が「東井さんにとって『よきひと』はどうかお父さんのようですね」と言って下さったことがあります。さすが西元先生だと、たいへん嬉しく思ったことでした。父は、後継者である私への教育の最後の総仕上げとして、人間にとって一番大切な学習を、自分の死をもってさせてくれたのでした。

☆大谷本廟への納骨の勧め

お釈迦さまは、お弟子たちに、「おまえたちは、私の葬儀に関わり合うな」と、命じられました。

でも、お釈迦さまの遺骨は仏舎利として尊ばれ、後の仏教の興隆の原動力となりました。親鸞聖人も、「私が目を閉じたら、川に投げ捨てて魚に与えよ」と、おっしゃったと伝えられていますが、実際に、そうはされなかったことは言うまでもありません。やはりお骨は大切に尊崇されてきました。



放っておけと言われても、この世に残されていく者の気持ちは、なかなかそれではすまされないのですね。

遺骨をどう扱うかについては、地方によって慣習が異なることもあり、一概に言えないのですが、関西では常、最初から二つに分骨しておいて、一つはお墓

に納め、喉仏のある部分は、大谷本廟に納骨する習わしになっています。全国の熱心なお同行がせめてお骨の一部でも「親鸞聖人のおそばに納骨させていただく」という、尊い慣習から、祖壇納骨が行われ、また、「親鸞聖人の近くに墓所を設けたい」との願いから、寛文元年（1661年）、大谷墓地がはじまり、今日1万2千余基を数えています。また、「祖廟の近くに新たに墓所を設けたい」という全国の門信徒の要望に応じて、新たに第1無寿堂（納骨堂）、第2無寿堂（納骨堂）が造営され、より多くの皆様にご縁を結んでいただけるようになりました

お釈迦さまの遺骨は多くに分骨されることで、それだけたくさんの方が手を合わせる事が出来ましたし、大谷本廟に納めると、ご本山にお参りするご縁も増えるのです。ある女子高校のお嬢さんが、高校の修学旅行で、お父さんが納骨してあるので大谷本廟へ参って帰ってくれましたとお母さんが喜んでおられました。京都だと色々行くところはありますが、本山に参って手を合わせて帰ってくださったのです。尊いご縁です。

☆研修旅行（三次三ヶ寺）追加募集

9月3日の三次方の研修旅行の希望者が多くバスをもう1台追加することになりました。ご希望があれば早めにお申し込み下さい。定員になり次第締め切ります。